

第74回  
 スケート  
 インターハイ

横浜市で行われたフィギュア決勝のフリーは、女子で世界ジュニア選手権2連覇中の島田麻央(愛知・中京大中京)がショートプログラム(SP)に続いてトップの143.16点を出し、合計214.98点として1年生で優勝。男子はSP1位の中田璃士(愛知・中京大中京)がフリーもトップの150.54点を出し、合計226.52点で初制覇した。23日も各地で2競技を実施。スピードスケートは男女の2000メートルと団体追い抜き、アイスホッケーは準々決勝と準決勝を行う。(丹代裕太、千葉達也)

全国高校スケート、アイスホッケー選手権は22日、各地で3競技が行われた。盛岡市の岩手県営スケート場で行われているスピードスケートで、青森県内選手の入賞者はいなかった。八戸一中出の船場充嵩(群馬・孺恋)は男子5000メートルで8位となり、2日連続で入賞した。  
 北海道苫小牧市で行われているアイスホッケーは、八戸工が白樺学園に3-9で、八学光星・八戸の合同チームが駒大苫小牧に0-38でそれぞれ敗れ、青森県勢は全て敗退となった。

アイスホッケー



【駒大苫小牧】八学光星・八戸合同 GKの菊池流斗(右から4人目)を中心に守備を固める八学光星・八戸合同の選手たち。苫小牧市のnewsアイズアーカイブ

光星・八戸大敗 GK菊池「いい経験」

【駒大苫小牧】		【八学光星・八戸】	
反補	得補	FW	DF
011	000	000	000
017	000	000	000
022	000	000	000
057	000	000	000
007	000	000	000
002	000	000	000
011	000	000	000
002	000	000	000
012	000	000	000
003	000	000	000
050	000	000	000
000	000	000	000
022	000	000	000
041	000	000	000
000	000	000	000
000	000	000	000
000	000	000	000
000	000	000	000
26138	計	000	002

○：八学光星・八戸合同は昨年の王者である駒大苫小牧の速い攻撃に屈し、大差で敗れた。GK菊池流斗(八学光星)は「負けたのは残念だけど、いい経験ができてよかった」とすがすがしい表情だった。  
 ソフトテニス部に所属していた菊池は、昨夏の青森県高校総体で引退。その後、小学生の頃にアイスホッケーを経験していたこともあり、メンバリー不足のチームから誘いを受け、再びリンクに立つことを決めた。ただ、小学生時代は主にDFとしてプレー。慣れないポジションに苦労は多かったが、「仲間とプレーするのが楽しくて続けてこられた」という。今後は理学療法士を目指して勉強に励む。「人生においてもいい経験になった。これからに生かしたい」と前を向いた。

【評】八学光星・八戸合同は攻守で圧倒され、零封負けした。試合開始直後に先制を許すと、その後もバックを支配され、計86本のシュートを浴びて38失点。放ったシュートは1と、反撃することができなかった。

スピードスケート	
宮坂(北海道・白樺学園) 1分13秒88	川(北海道・白樺学園) 7分9秒49
▽男子1000m ①久保颯大(北海道・白樺学園) 1分13秒66	②船場亮(群馬・福徳) 7分17秒24
②若手選手大会(ト場) ③山口(群馬・前橋育英) 1分14秒19	④村上雄太(八戸西) 7分35秒13
③3位までと青森県関係分 ⑤佐藤颯馬(八戸西) 7分58秒12	⑥佐藤颯馬(八戸西) 7分58秒12
▽男子5000m ①佐々木泰	⑦関口綾野
②長野(小海) 6分49秒15	⑧関口綾野
③堀(兵庫・三田松聖) 7分6秒48	⑨関口綾野
④堀	⑩関口綾野
⑤堀	⑪関口綾野
⑥堀	⑫関口綾野
⑦堀	⑬関口綾野
⑧堀	⑭関口綾野
⑨堀	⑮関口綾野
⑩堀	⑯関口綾野
⑪堀	⑰関口綾野
⑫堀	⑱関口綾野
⑬堀	⑲関口綾野
⑭堀	⑳関口綾野
⑮堀	㉑関口綾野
⑯堀	㉒関口綾野
⑰堀	㉓関口綾野
⑱堀	㉔関口綾野
⑲堀	㉕関口綾野
㉑堀	㉖関口綾野
㉒堀	㉗関口綾野
㉓堀	㉘関口綾野
㉔堀	㉙関口綾野
㉕堀	㉚関口綾野
㉖堀	㉛関口綾野
㉗堀	㉜関口綾野
㉘堀	㉝関口綾野
㉙堀	㉞関口綾野
㉚堀	㉟関口綾野
㉛堀	㊱関口綾野
㉜堀	㊲関口綾野
㉝堀	㊳関口綾野
㉞堀	㊴関口綾野
㉟堀	㊵関口綾野
㊱堀	㊶関口綾野
㊲堀	㊷関口綾野
㊳堀	㊸関口綾野
㊴堀	㊹関口綾野
㊵堀	㊺関口綾野
㊶堀	㊻関口綾野
㊷堀	㊼関口綾野
㊸堀	㊽関口綾野
㊹堀	㊾関口綾野
㊺堀	㊿関口綾野



【女子1000m】1分29秒37で20位になった  
上田千聖(八学光星)

上田(光星)巻き返し誓う 女子1000

〇…女子1000m 高校では、スケート部の上田千聖(八学光星)と陸上部を兼部。陸上長が20位。目標の1分27秒距離の練習で養った持久力も届かず、「後半の力が、スケートでペース攻めが足りず、ラップタ維持につながっているほイムを締められなかつか、ラストスパート時の

スピード向上にも役立っているという。序盤から同走選手をリードし、危ないレース運び。600m通過時点のタイムでも上回っていた。だが、終盤で相手の追い上げを許し、負けじとスパートをかけるも、最後は僅差で競り負けた。

群馬県で開かれる国民スポーツ大会が控えるが、「予選を突破し、決勝進出を目指す。必ず入賞してみせる」と躍動を誓った。